



中村俊定文庫
文庫 18
76





歳旦發句集

次第不同



年代不知

飛梅やわろくきくも神乃去伊勢守武
 筆ひちてむすひしう字は去山崎宗鑑
 わりころこひをさるるころか貞徳
 ひくひる餅はあろこ此後か立圃
 喜まよふりめてう記門の松徳元
 去年よわも満らめてう記を塚慶友
 言形カの竹もはく立たる日カ休甫
 天等やうすをうめて私合糸維舟
 去年の毎日な膝やわ乃春春可
 多も木をめてこまうん日カ良春
 々乃喜は立こてく川り天り下長吉
 叔の子に二親をいこふ身始外氏重

(天子年)

々々咲ハ年つよふきや夜の見伊勢一
 寛永やあけ七や廿午のう江戸一
 夜の子とあめけ後あむ月あ幸和
 物あむれとねらるまやぬき鞋合徳
 立あらうふらうさるるといれ善吉厚
 物あまうとねらうらうさるり雲以重
 せんとう奇と朝ころえん徳海一村
 言の試筆ののまりと朝の夢宗祐
 入つたに先を後らああと家
 礼儀とをかざるわらやもさうあ島を
 年体よふさかるとぬの日部休音
 志いのさき紙よる門すやあ夷に直
 ねはめあまも也まれば乃光常知
 ま風よいとてまらや年改ら
 年も今もうら始ハ心月か常慈
 四方にまきとさうねる日と利清
 をわけてと朝ころ年改ら成安
 い心事いとよきうま年始一正
 年わけてひくくぬ梅や古曆友
 ついさあやのうらうと西武
 と朝のまハ朝朝あうと貞室
 今朝様へ年玉の遠近扇ね成次
 手袖ハ心の花れはわらう仲知徳
 と朝むあまりんれりらわかれ
右に鳥丸亞相のあそいされたること
 ハ言らう神の威光もとまぬ昔
 手袖やうあまりんれりらわかれ
 日の影やとねらう政昌
 喜らうとらうわらわ日結

哉

身も河内は産ま畏れを成去日如
年の徳とほくやかき餅そひ宗畔
善立といふや善の天の志とれは道首
尹也とするまもや子馬此年大坂静秀
立福の年八人ほにはる日家元州宗明
しや姫の手釣あらし虎は子日定時
事さののるつあふや門の松日正平
開の戸や秋はきくめは代は善家
日月やめていといとつるひを棚自利自交
の事とかがうととてや粘縄自利孝庸
東西と善れ志はむかひあした依
乱晴てい風新善の朝習うか定清
去年つあてと物もりのおれはの善常辰
ゑいおいと越ゆる年や二まひを方

去年の假令と日々の人の聖善覚無道廿
年徳のやふまのあけやうりめ梅盛
秋多や吉也と三福乃弥の善書自利
のれ徳も善らとけしやふは重大津机
山里やいほも日月門乃杏季吟
自らむまのこふむをぬや善風格前安靜
多啼てとね天にいつれとめ小時之
門松のこもや琥珀は代の善同念流及
元日小笑もあしむ徳く不安大坂明
大舞の代代を祝ふきくお外良保
善の名は善侍死うとてめ友貞
神力を申しひくくや花風生安

洛中や神の花さきふの去^{天満}和年
 年玉のまゝもせ^{天満}記座あ^{天満}式一^{天満}書
 衣了そふくゆへ^{天満}七郎乃去^{天満}空存
 妻や二夜五年の夫れ^{大坂宗立}子^{友直}
 中^日初やわりのかりよ^日念^日方海^日音^日箱
 と^日初^日う^日ま^日む^日月^日く^日乃^日そ^日め^日系^日弘^日永
 と^日初^日や^日あ^日雨^日あ^日日^日流^日わ^日む^日花^日は^日善^日自^日盛^日
 去^日た^日け^日さ^日團^日玉^日や^日白^日砂^日神^日の^日去^日光^日有^日
 逢^日越^日り^日一^日乃^日多^日井^日花^日神^日乃^日去^日武^日法^日
 治^日ま^日り^日気^日や^日壇^日と^日い^日し^日川^日江^日代^日の^日去^日正^日成^日
 去^日久^日代^日の^日去^日さ^日ひ^日ろ^日や^日か^日き^日り^日繩^日去^日声^日作^日
 と^日あ^日む^日む^日屋^日敷^日百^日と^日の^日役^日乃^日船^日登^日支^日
 と^日あ^日く^日れ^日去^日宗^日や^日古^日年^日以^日息^日の^日心^日嶺^日利^日
 二^日年^日の^日後^日や^日蜻^日蛉^日む^日す^日ひ^日團^日の^日去^日音^日去^日
 万^日葉^日や^日あ^日あ^日に^日去^日る^日川^日乃^日松^日守^日武^日
 陰^日麻^日川^日と^日波^日せ^日に^日去^日せ^日年^日此^日乃^日同^日
 け^日さ^日あ^日あ^日つ^日ら^日も^日随^日に^日去^日せ^日長^日免^日
 去^日庭^日と^日あ^日あ^日に^日去^日る^日や^日と^日此^日年^日同^日
 大^日正^日の^日お^日や^日つ^日ら^日の^日い^日の^日乃^日同^日
 梅^日も^日け^日さ^日あ^日ひ^日て^日ら^日も^日年^日此^日年^日同^日
 風^日凰^日も^日お^日も^日去^日余^日ふ^日と^日り^日此^日乃^日同^日
 と^日初^日ゆ^日り^日自^日ら^日あ^日ま^日の^日花^日乃^日同^日
 冠^日の^日あ^日い^日と^日し^日い^日む^日ら^日お^日あ^日乃^日同^日
 年^日玉^日も^日去^日く^日を^日去^日ま^日や^日は^日同^日乃^日同^日
 去^日ま^日き^日て^日あ^日あ^日乃^日積^日れ^日は^日同^日乃^日同^日
 君^日久^日代^日の^日救^日も^日あ^日今^日乃^日去^日乃^日同^日
 依^日保^日娘^日と^日子^日と^日う^日の^日む^日月^日乃^日同^日
 去^日年^日よ^日り^日去^日去^日去^日紙^日も^日は^日乃^日同^日

大うや茶やや子年いさく同
年ぬてまきあをる元日

冬と春の中やううとふ家同

暮くや海よふいふ代のは 同

門くちまうやまは上流同

楊弓をまき人かふ言の子が同

天下皆ひくやりの花の春同

くわうの誰やまを今年く同

寛永十三年元日の蝕

異國皆志うせんまは日か同

いふこのふてや人の腹ぬ同

正月をりていえ梳らん此録同

崎原といふおたいたいす此録

巻一と此征伐のこの軍兵とを

いされゆらりの元日小

をまこひくすまきやせとあは同

佐保娘も花笠めすやけさの春同

餅のうへの巻丁を腰のかと記同

けさくかかんをらあやいよ同

彼中につむ年まやいとから同

世の人乃鑑てふあをまらも同

言と梅の花をかきりやふおは同

昔ふあいのぬやまの開大互同

いふらやあ子れ中あまおは同

きのまじとまておらとあは同

う白といふや白記連き外同

み奈の石の橋と

あちわらまやあ石記橋指同

くる年のはげは花雪風月ふ同
子とつとつと人の許よそ

元六子とよわむ乃効那同
ふり記るまはきそそふとくに同

去年命初をこれい南の生我
くつら心と海板さからりを

せらせむ女と親とあると一か同
子強の儒乃敏昌と設て

かの前とつとつと物と果報同
よあ、君餅とそとつとつと

はきよむとむすこの百あ返ふ
所へつはりますまんと返る

家の風雪そせんねん乃始ふ同
めつとつとつとあをほるとか信れ

珠重とよわしめてくしと物風月
梅あや雪雪乃くくしとあ同

はめてくまもそれとめだは乃年同
竟舞のは代はもこえんとか同

ひあや親重もとあて
まるとよわむひあやの試重同

年の内れまやまあめとれ重同
是水のえさるも涌て之方家同

あててわと重か入れ子重同
月七日と天下一也とつと書立圃

くる書の年まなるとれ重同
見りあも今朝あむらとれ重同

善承といつやと葉の重と縄同
ゆつとまあめつとれ重とあ同

年徳の神のとりあがり門乃杏同
まのうらに難波のみくらひ其同
とくそめ女神男神の喜乃喜同
天下やふ帝にも水ぬは代の喜同
花あふ南枝お枝よまよ乃喜同
初喜れるまこと舞うや万葉集同
ゆてと物日記にもしも松毛亦同
依保娘の十二二きりまうすこ同
天弟やりすこをうめて和答樂重頼(大)
めてとふとふまてくらやあ妻同(大)
喜乃日の威光びびすら吉言亦同(大)
いふ寝ておくれはあふかひは同
十歩まひまひと遊む一時をうら同(大)
ころのころの雨はは砂とをのり同(大)

隠餅よそふはし月信野を外に草
ふ乃丹れわうとめをこる試学亦日
むくふやぶの山科乃後もら日
依保娘しあふやうとあかきる和答同
ゆりあがりあつとすりらる喜見亦日
福乃神々よのせくらや牛れと良徳
すうま平梶系あつて二交はけ日
年徳へ甲方乃まぬ平川おりの日
あまふ又餅衣くくや二交乃去日
よ乃蜻も出るや去まはせ乃海日
喜永乃年乃乃福祿寿の日
子親よす人てもらわ乃後乃徳元
あ梅や年飛あえて記乃去同
とふ年徳さうらや春の法以受友

歳

年男すのいさ姫とてのふ月
あつ玉子久りてとやとれ年日
いふ水波をてあけめ辰辰年金一
言と唐紙を門の言とれ言日
とてとれいづくの梅の赤例の月
年このゆのあ言すもやけとれ月
一妻と耳とわ年とて言れ言日
言もゆ言に長あまき此方日
立ちりや言とて唐のせいとて人長言
寛永の十梅りまや門乃松日
あつ強へとてい某師十二神言れ
言れとる路地のかとて門の松幸和
言言とせと立ちとるやとれ言日
とて不弟や先法流一乃筆日

言はつとたて孫と矢言言始日
連言あつて再返めと唐とてい唐と
言かて言ちとてとて年此言日
又母とて言けこのゆらぬか或重
天とてとて日言の言此年日
正月のいといの教の言せと那月
あつりてとて言やとて年此言日
九牛の二万年此とてり言日
いふといといりてとておれ言言言
言やあつとていといとての言日
言水とて志の波をいとい言日
年とて言とて言とて言の言酒日
とてとて言とて言とて言とて言日
言とて言とて言とて言とて言日

ちやくのこの奈のつさるや梅子愚乃ハ
波あり海ありのこのひやく外月
何れも人いそまき葉はむは梅盛
明てまよふ道は面う花さかす月
ゆて入いこよやちかれをたれ月
そのうれ感かやうは神武月
かきわ松のちもいそ君は成武月
とよのまやふ代の物物あさる月
右年のとま多うぬえの年日
あてのめいそ男女とこの酒を
まけよとひさうふも花の去月
年の徳をかたけいそ門の松安靜
佐保姓といまはるうはか去外月
ふてくるま月や力そのよま去月

うら年やいそむせぬねのころ有波夏
鏡餅先そあてよまのぬ大坂
二年男をちあしそむい幼致也
事幼也縁まの盤のちの海日宗書保友
はてん天下りてを鞍こや松拍子可貞
松まらひひら縁あまの始日宗清立以
難波はのころころやと池う始日重可致
と物のぬや成まのよめ道と題日是と
縮こそかき向もたれ一門の松日立以
くらやの記是利の又左は月日燕石
は持と糸の花垂くわらわね雲日皆虚
年花のちめやゆはまきれ日信元
はいつらや赤花は年々は月尾川友我
あてと年おまは縁あまの年日加友

このまぢ母の喜日と三かゝの清長遠列

くまひ幼や久々年迄の神々任守と令申

申幼や紙もすえうー松乃方宣安

四方の産ふひく天下れ日満直元立和

言ひまのりしてまどわ乃年長運

まぢも侍ニ交とるのと無降子奥州 乾宅

まぢも侍ニ交とるのと無降子乾宅

松子代もあのかんこのと一か令旨

まぢも侍ニ交とるのと無降子昌意

尺初め、暦や年の午とるーを貞

人の世と成てあ〜の始のふ定隆

君代のあは救りよやあは長好

命毛も心よりあは試るやか重隆

後腰もするや子年の門乃松を好

けは宗とてと物大くにくる改信

後へ子代のまのひわりる孫貞重

お月おやふくもの後もち友宣

神乃形なすゑ無名やあ夷元晴

あけあらのあ積幼やあさ〜由重

容相くし救のこのまあさか令教

またま赤松い海門乃なるを春

絵も書も筆試むやあ夷種采

大あやや葉とまめ海一む〜利政

あ〜あや夷原氏乃此代のま元加

高あやと紙く〜の祝幼ま奴

まのな年実徳白けす〜政信

三あさた〜一夫のま日〜可教

依保姫と納と願うあきき足れ去

治ふまきさのしほ代れ去自怒

去乃日やきくく年七午の教了味

家のうち姫子にかりききくも夜

言のふやた今乃三子日昌房

年と行てすりや花乃鏡餅正朝

君りのをせ候あふの鏡餅如近

海の水にぬえせぬ者乎か徳寛

神代もや人しあふ去あ鏡わし習方

十二所と朝之原きや初子日あ立

事初ら初めしこのかすきあ正在

いつき先と三乃姫や天地人正伯

系子にぬふさけや國は親ま百

砂やくめたさつこのぬせあ子光正

みどり子もむね根や信その銀竹

くすまのうや大鵬もれり正由

大少のあまを葉のよてや随流

神といとわらへりやあ妻平吉

年代しやもら試むいふは一雪

美民の寝覚もらくや々好基倫貞

鶴且や大少の葉もとりわらせ友静

さか姫も試まのあはよあを引後秀

門松や家もたつれ京の町似船

ふそのまをいもて道そのまふ宗英

袴もそくや女川乃年男重栄

後系よも足事物や門乃去好子

己年
去のころもあつちあ宿の去宗雅

ふへて世六長者あつち三子日政之

冬とどろく餅も饅頭も三辰
 松二木三木そのあや川乃流味
 年徳乃神の百味うかしさるれ写
 新筆とわくもつきの去年外定伝
 商人もすくふそと代書在静
 顔鏡乃こころをくまの春去隆
 蓬萊の峰も海神やま忍び困位
 大少くも立事やまもまを忠を
 かまも松もあ乃く神の春ま尚
 川流のいもく人部平政時
 かめ乃酒つくとままま今日金徳妻
 月の見もあつとまの上みか花好女
 くの徳もまや花あま姫依方女
 年の矢の上まままをくまを永重

大少くの葉もくまやまを成政
 種徳や年の救まは身ん石盛之
 従ひままの春やまを川之松松安
 風そ吹何あやくまの元成
 春手筆の袖や次をまわ竹貞直
 あはるぬ花の園う三夜の春紅圃
 ちゆやまのまを年はく物立志
 活名天下一人乃思りまを親
 我年十れまにうやまを方存
 ちくま初ら暦やまを川神の春好道
 門松いもめくあ記下園か喜之
 改乃年もかまはけ乃春かま倫
 地福系万果樂や宿の春貞固
 まのねとふのになや餅縄松意

雜煮らんむつさ平安上中下伊冊紀

年の矢のつらやひしく花の去平野重庸

のしめさやく四賸乃それ年但秀江戸

あつくもくやり前乃花世去日親信

年乃殺も五三絶後乃減子外春宵河内

全れのあしもよりやうたひ初秋忠南

はさぬや我家樂ふは代傳春友次尾州

あふふ文巻乃じえ方家重遠州正

玉わぬや東去しよし去乃色日部上俊親

と物や芝唯一宗源乃鏡雲日一安重津

正月やるも大寶乃鏡餅橋列重道

賢とくうれれ世や唐種橋列一才

早もいふあふ道年去女日ふ一幸

去や門は皆立よりてそられ松日正舎

と余くく伊あふもくあぬ者書伊あ吉

去のとり連理乃枝よ花乃去備後定行

代や去の十ゆりなりし松かそ日定親

は加増せいとよそれやかた加列正権

年玉は古風はあつく廟後列分徳憲

碎てやくし雨や鞠乃花の去冊列著英

そんたそあれも去出り多れ徳州初塵哉

蓮井に志る以鏡もやる茶山上州守治

年の法やつ七廻紀列子付去一入

正月や旋ふたうげれし女列乃神一糸

めてと木とこれあや二但州お記去安成

年徳や我死しはも肥後ちの去春重

くろむらぶなまもり肥後也後伝良庵

年玉とし代と於部安日あ子か金門

四万よの大地に根元乃去肥前十三玄茂

年法に我あつゝもれた取形ふ任休見に

きいこ小遊草山や飛う各松本氏英重

改めてさぶらふ年や去り去り同

風乃口もいふて去り花の去淡氏正俊

いちこや記すや言々朝乃去海峯名氏竹友

多に水や去乃始の法悦同

門松や去乃さぬれさる同

花れりや一家ひりれ去下塔同

古今ともまの傳更此さう日同

内祝もさるや心乃さる此去同

祝ひ者よ海さ取々去乃宿民善長林氏重榮

男の子成りやけて

と傳更をもつて同おなまの同

○寛永十六年己卯

万物乃出る去日や如去去珠貞徳

佐保姫の誕生日さる去乃去立園

年も去朝衣改はくろ言はる重頼

書物やいふは乃一二三ヶ月幸和

去とこ此去記さるる子代乃去良徳

さる姫乃几帳たてさる去年さる正家

佐保姫の生さるりり去乃去去政公

万葉をよらや門乃松の色常知

あさりと記して十物もせよ門の松室居

試むる事さる年れうの毛糸仲首

去の事記さるる川や朝夜照量

去の事記さるる川や朝夜照量

よりく乃むの法ゆくこと堺一正

○寛永十七年度辰

去らるる京方よりやせんく自徳
 と朝のや國帝之代代聖立圃
 立書乃見や併柴流の一番の幸社
 陽書の徳やそのや門乃松宮知
 書の樂のそやもるるよれ書^場を
 言や松よゆてひるる花の書^場を
 打そむる基乃二日やと日書^場徳元
 のそけや神代もさる辰年梅盛
 其のや年徳神乃流るるめら書
 耳の書^場はせよそひきおれ^場成安
 去の^場のりもや一とそわ^場を^場を
 試むる^場のやとそ^場乃^場つき春可
 去との^場の^場と^場も^場ま^場ば^場ち^場の^場乃^場流^場宗^場房

○寛永十八年辛巳

一乃松葉や若う法代の教貞徳
 年とわと^場の^場餅^場を^場花^場の^場書^場立圃
 流るる書^場の^場是^場久^場や^場右^場冠^場老^場幸^場和
 起やと朝の^場と^場わ^場り^場乃^場信^場効^場常^場知
 去の^場立^場て^場と^場好^場る^場書^場や^場二^場年^場徳^場宗^場法
 己の年^場の^場何^場り^場也^場乃^場神^場乃^場書^場政^場公
 々^場の^場書^場や^場書^場の^場こ^場ま^場す^場は^場流^場餅^場定^場清
 己^場の^場書^場は^場い^場と^場く^場乃^場扇^場乃^場常^場辰
 門^場松^場乃^場五^場百^場教^場公^場代^場二^場年^場書^場良^場徳
 若^場水^場の^場書^場は^場書^場乃^場流^場の^場流^場乃^場梅^場盛
 事^場初^場も^場ま^場あ^場や^場す^場は^場ら^場す^場こ^場い^場書
 亦^場例^場と^場そ^場ら^場と^場書^場日^場乃^場村^場始^場乃^場光^場政
 花^場咲^場て^場こ^場ふ^場り^場年^場の^場こ^場の^場仲^場昔

高き松天地のやまのまゝ一井
 三〇いふと年三の層の常陸
 年明て去乃戸をぬれわら房
 大舌はくも水乃泉の那全一
 今朝や松を承りたる忍び此道子
 是とのひりきいめてとく方去香を
 くるまの及こし方力を得たるの意致
 少多のちのちつきふれおれ餅のこ
 為水乃あきいよや花乃去水治
 りて中つる是う年ま心玉宗房
 わる玉やうわとからるうま自徒
 二をまや唐乃衣れう衣を方
 年函乃神の伝えやうひ幼を信信
 去乃息もあえつればの水介の依

○寛永十九年

小孫のねも立や屯乃とよ自徳
 父母よされや葬ん去乃去立圃
 入年や門乃松風ふ乃神幸和
 治中乃門や水野く一教去産頼
 足徳の暦や年乃午志しを貞
 わる玉八年乃徳をまへりかひ交
 四方よとふをあや去乃立安(軍甫
 年も立うり新産うと見雲(直
 多の志や四方へ産けぬらり休骨
 川よと朝年越松のなかり赤
 高美まてめて泰平や代は去定更
 門松や万葉承りてかむを供

○寛永北癸未年

おまりりはきやや再四方拜貞徳
多子言やけ可れ乃久りて人立圃
と来りてつと二あり宿の言幸和
門乃松や後又百歳れ為縁成次
年越て又立言や中やまこ金一
人さのさ成るほもやむ此書極盛
事也乃百歳の点然らり脱し季以
而さやと野せつと乃言の色白草
不立く道生物やかとのま乃乃最
ありあき年やひの物さ否宗時
年徳乃此社なる徳初もしを供
年よりぬ依保非さや吉陽母貞直
四本かささるや皆尸と門乃松安明

○正保元甲申年

と年々このいふるれ花乃言貞徳

旧冬御即位乃仙蹟

新去と君もいそや四方の國立圃
依保姫と年いつせうあ急ひす幸和
むへりや平安城乃言の元成次
いふ殿て起せはる記あひま急直
そんかうちひぬるま此言まかひ言
言まけさかろ後やもち乃言乃言
されんのをれをさる言も言梅登
冬平やあけて天下乃言かまき香吹
三方もえてなりや中さる安静
あさろや子年乃そめ落城宗時
依保姫も婦入いませるは年孝庸

○正保二乙酉年

多報も悔實と承建治代の書貞徳
 書初や一字一天乃々朝の書立圃
 書もろふ下も念ひと承徳元
 版赤くや書并おとまは朝書良法
 めくくとりや初乃益の種西武
 腰くむ人よあやれあ忍ひ也聖家
 万筆とあくくの川始く承常如
 門松や芽の年乃秋は承仲昔
 年と日比田墨のるそく承登支
 と朝立ハ是のころや南北く承和
 年ハあくくのりりく初那有次
 越て承書のやかんく自れ梅盛
 承初乃文字やと年の四の結主方

○正保三丙戌年

正月乃れ其とくつあぬぬく自法
 せんり天地も深きと初世立圃
 りもも万筆と記し試す承良徳
 藤原く承子乃法代の松餅政位
 書のにたの承おろきた承登支
 承川と承や承天乃下承書承龍和
 武承野く承唐とく承始承重執
 丁林の日やハ承色と承承空存
 君ハ承長や承承子代乃承徳元
 史と承承腰く承承承承承承
 天承名地承承承承承承承承承
 承承承承承承承承承承承承承
 承承承承承承承承承承承承承
 承承承承承承承承承承承承承

○正保四丁亥年

加新宅登卯の日乃西行

わたりはつものとれぬ其言貞徳
ひまや式三よる乃翁立立圃
多木もやあ水つ子古初命きれ
右平乃代や年法の神ぬさ良徳
佐保姫のまろむ月姑乃常知
一夫乃かそくさふ記試習か成次
佐保姫乃うう年此終子良徳
正保やよんふり記法代其仲昔
事初や喜こふあれ一字願は清
佐保姫とむうさ之申さふ政信
福の神を説ひあふの転ふ友貞
あつ玉女言此年るる暦ふ常辰

○慶安元片子年

む月てふ宮初ははせ乃清時貞徳
世りや上とくも初乃云立圃
物法め邦歳子星そ民此言良徳
殊をや一十三月うの云宗祐
その弟二年徳や又出懐妊常知
正月も一をぬ川小神うふ雲武
常盤木もまや威とまらんの松正景
佐保姫の居あまそむ月ふ成次
正月乃まのふらふ記小神か良徳
ひまのひまもあつや祝初言良
徳する詩あは是る和復承仲昔
右年乃威よあそくさ言良徳常辰
連あまであつこ初や言小神良保

よるこひ乃儀式や業乃弓始政信
大少のふはもまのあり友宣
出り見や世く東衣此は年玉空存
ふよぬの似年やふまをうつ^つ有次
久まやま乃中やも一乃一^{遠州}漢長
く年乃胤の志やち此去友貞
一はた片の福やちあふ此去和年
あつり花乃肉へやあまふ控業
手幼のまゝやち女又字季吟
王去のまゝ記まゝやま娘出安靜
幸幼の附ハ麒麟く向り那宗畔
梅檀、二葉かゝる門乃松時久
賣物いより記梅の年上扇くら業貞
これねやくまんとそひやく三まな去治

○慶安二己丑年

めぐりわふ湯玉の代代表見か自徳
筑前乃國宰府まで

餅花とまふや宰府の神代物、立圃
物や以遠方人や去乃孔重ね
あんせよあもあつてよ記難者不良徳
いふ餘々言をめきねる宗祐
治まて回海一也きふ乃去成次
万代の安まも回去乃始川西武
去とまてふ川治とて此の波ふま
ほくま成りくくふあれお花か知徳
門乃松牛角よまや年此去仲昔
半細やま京行ま三乃まら空清
試むる等や一射まのく年常辰

新波はや加例めと記す自基未安
 年徳の考とてくく中大かま友貞
 依保姫や京てくはは田の好昔
 おれ世のちを私るもいと平れを貞好
 一女三人秘人ありと名忍は依成
 わるる年やうう嶋太は月大板友直
 加をむ江やまはま喜れは志左別清長
 々新やまわのりるさのり一かてし平吹
 まぬ種もくやまもや門乃松安靜
 考うく江新門乃乃やゆり長宗時
 心徳をゆくり照る宿の去ノ身尾列
 年徳のひもろまや門乃松助長
 せんまのあまのたま門乃松を治
 門松の考やたま乃くくし初繁林

○慶安三庚寅年

酒むれそ小伊勢れは花の鏡餅貞徳
 改年乃はまや伊勢れは柱立圃
 門松もまくりりまぬ年男重頼
 深まはすこせ人秘人の試事小良徳
 初うや古き依分つて年風長吉
 逆幹乃一隔すしそよの去宗法
 心徳の神こそめくりくる徳成次
 々乃まののよはぬ小神小雲
 年月日小卯もさうか加傷小百景
 天とて下ともあつとのろ小松吉仲者
 嵩くあよ付るいふ乃呆小定清
 四方神やまのせらまの山代雲貞和
 幾ひさけとそ浦らまん依れ去政信

年乃徳歳やふかこと以て徳ひ徳徳知徳
 日乃りすのとききこひはあに香欣
 白て立言や表すも門乃松常辰
 門松や立横所乃たある處主妻
 左方より立言の林り門乃松友貞
 立言はさうりてもあるも水立大友立以
 二度や竟と争うれば代の言重以
 加らまの如えひく柳のち友次尾別
 寛との用られぬも年如か安静
 中さげらる色さへけさく物宗群
 かよまひめてはたうれば始か正朝
 かねて立言や地とうせん移の同松大坂悦喜
 事ゆの文もくこのあかやう情別政次
 かこそははゆりてつるものうに元記

○慶安四年卯年

旧年八木さうりかへら

福乃神説ひこめす耕り繩長苑
 元日や日本にらふも文字心松殿
 妻乃門に松りある也松まきまこれ
 回らうればあこれ様まく試まふか西武
 あたのいふひめて砂産く那正孝
 あらむちや三十五字あまり二松知徳
 万代や亀のあはりの松かあ良徳
 白の徳もありとらんや二松常辰清
 ほきせぬお侍の匠門の松柏子仲昔
 今朝はなん松をめて試まふ西親
 ちうちう世にわさる記言日外梅盛
 子代のまや言の毛衣試さそ松貞好

滋の此酒は悉く見送へし即元暁
 其の書にありてさきと云ふ二つは常辰
 まゆや勿論之乃三十字友貞
 望のつにありぬと年の始ふ左札
 元名や四海はみこ存一漏岩利
 去年の申と初や健徳はもの美字云
 九人とも是となるも梅賦可大夜立以
 務不年やいもさる人をも風香吹
 云はらたりし時とこの要うか安壽
 一と存紙一書とやさる門乃松宗群
 仕合紙試筆の紙や大とと一知足
 福と忍ひも寛やらも右は月貞本
 勢溢て事ゆするや一と下幸以
 元と云ふぬさつよりけやわらか一と

○兼應元壬辰年

千載一遇き新の年るれか

此の人の云ふ事もさるやま代書長院
 濫觴のふりまや唐紙代春の書松翁
 若これに臣も新書の紙交はるに
 花ぬ事此去例さる一と初書長徳
 録戸明し神の恩潔矩々宗祐
 々朝つと書もさるか々年武
 十支乃枝もやむくも此の
 万民やふはる年法の神意成次
 るや々朝おのり幸を乃書知徳
 うやまひて中礼や神の美宣廣
 喜やさるつとせりきへり始常辰
 年法乃白ふり書四方此京梅盛

幾子世の算れひとや々秋可移
雲石となり今ふかぬ代の去友三
猶や種を群しあつたる民雲の友五
一二三言わらふなり花乃去大坂立次
武藏野くまふれあしし去る友負
白月ふるれし餅丸長名引自懸
あやうけてあしむるも立去安静
そ乃ほも地の理ふさやを春宗群
さる姫や前後も人きわの去乾宅
志のくふるあひあよは代風有次
名う代や旋ふとそ白博多月三若
仍保姫や京京戸の言の母可加判記
百首ももあやまては去月言記
めてこめらありわさ三日元次

○兼應二癸巳年

枯ぬちあひまはよ去いさく介去宛
年の信や行去きぬよ中つさ松羽
心廣く去於ゆこくかひ姑外良徳
と日辰卯杖よせりや昨日本西武
ていふくちりや地紙の去らま
つまらや世の往後も去の去宗畔
根らむく去や去日以念祀知徳
年も立く去のえはあしと去意安
三十く一役よ立去もく去季吟
民の徳も厚なりや米横安静
子世の去よ去ていあんと去うの梅盛
去や先影と詞のきや去文常辰
年くよ去くりて去去去去友負

大餅ハコウリヨリセシ人隣ノ不富
 花ハスミヤノ年カシ風ニ重似
 余ハモモタラシクノ松也(定重)
 カラ竹乃徳ヤカ子世世自利
 来幼コ詩ヤカシ合路ノ子何去自成
 々朝ヨモ家考乃去のそめハ政伝
 門松ヤカコノ射の花ノ去泰
 年徳トカ忍ヒまもやカ忍ヒ自宣
 小ぬかろハ孫あけてくむその表去
 天ノ戸モ去そとトは津嶋(世和)
 依保姫ヤ正月ノ神ノ法無院(正在)
 忍忍ヒにハ朝野ヤカすこ昌房
 大納ヤ引こむ門乃去ノ凡一滴
 九カヤ天字ヨウキ代ノ去正量

○兼應三 甲午年

手初ヤ祝賀ノ教カ一文字立圃
 松也ヨコカウリヨリセシ人隣ノ不富
 去カシノ弱トイトハ去カト表
 年徳ノ神モ新掌カ梅也カ良徳
 梅トめてモカカハカカ花ノ去正量
 今日成コト待カカ忍ヒ成次
 年徳ノ勢花ハカカ入コト知徳
 知コトこれカカ子年ノ松囉(定清)
 門松ト去人ヨカカ花ノ去正量
 漏扁リ漏リカカカカカカカ
 去初カカカカカカカカカカ
 色ハカカカカカカカカカカ
 去代ノひと去カカカカカカカ
 梅盛

世の喜そ竟舞うふ松花(政信)
 致せぬ何を以てるあふひ(友三)
 去の立てる年の結や中たも(昌房)
 子さあけともあやうらして(胡自燃)
 ゆあまの縄の永き喜拵竹(銀竹)
 ほとよりもりさうなる自始ふ(尾別)之也
 去の日は去けやもうある夷(可弁)
 こつと愛れよ祀あふや二ヶ日(隈光)
 年産の神もらうあふ試ま(善入)
 祢さや試むまも志る幣帛(善獲)
 浅深の香や試むる子の海(一有)
 去まもや秘登の始大師(善教)
 いふ寝てと寝まふことゆ(年武)
 去立といふ的協の弓はけめ(日武)

○明暦元己未年

この詩は
改題カ

門松や千載集の初言みと五立圃
 聖代や花の口人知福寿(良徳)
 弟あや堂衣さるる六居のさ(兼武)
 年産やまね忘のふ乃神(貞皇)
 弟あやま世の門の松と竹(成次)
 物産う年立海(かきり)縄(正遊)
 去ハ居世(や)居(一)身(し)正(常)辰
 去立(ま)や(人)の(心)と(こ)か(ま)と(梅)盛
 積(か)され(八)まん(く)も(巻)田(り)香(吹)
 去(方)より(立)や(申)西(女)の(去)安(静)
 人(弓)の(種)や(は)ふ(せ)ぬ(花)の(去)友(貞)
 志(り)ま(ま)や(年)越(し)日(の)之(休)め(和)年
 あ(ま)り(子)月(々)ふ(ら)ひ(弓)始(流)味

種長の勺すくさく白蓮より自利
 子代をよむ奇にけりわな松餅負兼
 粧竹も試子のまもわさる此正在
 的臣や世々よりかいつ鏡餅正伯
 々これ乳服やせんくひらめ大坂宗立
 大寺や福も子受乃并糸梳宗清
 元日ハ末廣くものり子めく江戸乳利
 心塞りくはくく侍妻や六れく月琴文
 ふ家年ハ二粒もるわよ之物のま月書
 元日や物乃くめこれ物ま月満直
 心玉ハ出入人志光う邪月昌久
 試むるもあやしむ此試子月二行
 梅り乃塩のくくやや月わ浪行
 新喜のまか儀とえてや花開月極寛

○明暦二酉申年

あやや年のみれぬうさる立圃
 世や若くはくして万かさる縄主主れ
 きえ始ふりもつき一石此帯令徳
 聖賢もくわく乃は代と門の松西武
 年徳の神やよ一あま一由此ま一貞室
 大寺の華や日次の祝一め定清
 明暦の又家まかあま一ま一ま一常衣
 手物やちまの積一大和假名宗意
 勅き夕に世や懸一おれ一ひ一月梅盛
 屠種一の酒あ一ま一れ一の一り一の一み一み一み
 隠病一も世一ま一か一さ一る一や一親子一も一安一静
 々朝一ま一や一一一歩一乃一始一四一方一此一ま一友一貞
 蹴一初一ま一鞠一の一か一さ一る一松一の一内一流一味

年徳の神や日なれ内候ひ昌房
 小袖りやひろやうくを候正在
 夏殿きききこの始ふ正伯
 孟やおもふれ我ふ乃去去雲
 吾人の世とてすまりとては直政
 氣は氣よりのこり此奥や川宮宗賢
 わまや去の陽気は清く平去
 江連もふぬさうや門の松より野也
 徳子紙も古今や同一の表を以
 之朝お日よや世も花用 好々
 け國乃々やや伏足乃控初程寛
 何れ乃ち事となりむ雲銀弁
 年も々々つ連は秀吾花雲伯貞
 立年やあつめする事始 加近

○明曆三丁酉年

破るれ才矢を先矢から是立圃
 稻やかり听て束つる神は去令徳
 書物やのけふ國乃花は去西武
 去立て世は酒のな向辰ふ貞室
 六十の餅は二川子あじと此去成次
 我門の子弱を陰やかまり繩空清
 永日月の種を植る力餘竹常辰
 あしあり世年々りく香乃分梅盛
 秋津剛やを初るるのれ新珠治友貞
 南は海にて去は鳴ゆるくは安静
 聖も縄むすふ四人も年男昌房
 之方了そ年法神の御領分政信
 上朝祝ふ大服の茶やあを保可れ

例と學びし紀文帝に試事引會
法入徳の世成りんこのから元略
富士程より多る言や水橋友直
實和心とをい本せり此に正在
任勢乃海れ弱や其代のが夷正伯
幾代登んわろ忍そもひさの録平吉
まのよみやを録らる喜此きさひる野也
門くよかまや花乃初草流味
居る方や文武あまの記云此喜重次
を小子親の好す説喜重元年権寛
年いとも初す川の日や注初玄隆
年玉丸くといとと物風良三
ろくはや古き流記てきを始^{大坂}宗立

○万治元 成年

きよいすの六位立也去乃色立圃
八百万よひひ此紙乃去来引令徳
天く下正なりまふ也を朝乃去西武
三乃喜す事四神相と地ふ貞室
万實の一女と云るやその去成次
こそ酒やとよききもら此神雲仲昔
有る大か智の認めし年の去堂辰
大鏡すゆの口親乃世継子定清
まき喜や花ふてふれぬを好梅盛
大服やふさしたはりく事始才安
侍も作るとよらるる^〇さる夷正近
言とけきやかいとらるる乃権政信
人の心親よかむととく外可執

心うらうらとほてやまじり姑正在
かよひのあかきもわらわや京上筋正病
たつてよ世済するに花は雲和年
まゆもくろくはのいの字外昌房
開ける文字やかきと扇門の松好子
ぬきんてきよそ試むまじりや李井
長生や彰去跡よむ内いよひ平吉
予はこれい物くれいの去まか野也
讀初や源氏乃真美三ヶ日由寄
山名のをよわかぶるや筋繩令致
山松や二平並乃文字ん種寛
大黒の棚よや筋のいんこり宗雅

○万治二己亥年

御の字やわかる詞の花の去立圃
陰初やむきまらふれ道の事重軒
大少くに賑ふ民のかまらふ令使
去らるとありくへ繩やわくろく西武
山はあそん今ふ十年いさこれ松貞室
元日八月乃亮中よ去乃去成次
文字のよとれ万治の代の去定清
あやむきとあはれこのれ斗の板重方
初去のあそあつこき事始を供
おほれんまん年やは代の去定重
礼樂のこつ乃始に試むる貞利
雪のあそあつこきとあはれ去重方
君う代やほるとなめて初の去梅盛

吳國まての字のほつと年表常辰
喜よ喜ハ依保姫こせのほつと友貞
綺とありや年日よふみ秘作秘年
文よに志と印き月れ後餅昌房
喜やお里と朝立増掉姫は流味
花ハ死賣物棚乃かきり縄好子
幸や引よあけるらりめハ信
花のえとふらあやくに立枝ハ可れ
如や種よとそしすたかあ喜貞兼
若く帝のそめん入や山菓子正伯
大服の茶とゆつと茶の傍分喜吉
来功のそよとあむむや心一雷
神よよと喜の色や喜よよと則常
前いとばあつと花涙すこれと元障

大服はふらあしそ茶鏡ハ可令
氏ハ秋津ハ八國久よ代の喜種寛
家伝とてぬいとりや鏡り繩吉隆
木の葉とも錦とやかみ松の門三辰
秋ハ葉のくハ八ん年のみか喜桂
のころぬは代ハ百よ万流分基喜
大服の茶とよ前よは宿風雲隆栄
佐保姫のかりふとわを依政納
幾とよとそふハちぬはと鏡一里吉
明去の半よとまや三乃喜伊安

洛下神原氏

○万法三庚子年

去年立て申之とせりた云立圃
 せり古座れをたもあは美重頼
 鳳凰とく池記たのとりれ令徳
 ありくの玉垣の内はあふひ雲
 雲霧や餅の鏡はくはれ神さ自堂
 三心立山やよふ者申の大和あ定清
 立まきやひ和日乃下ふ一文字書辰
 ちをぬりもつさも根も花雲梅盛
 の花もほのくわけや初梅香吟
 子金の價はまきの立福系似堂
 所りこそ齋すれりて鏡餅を方
 赤くして世に流るまやなり繩を伝
 流人や男神まかあ急ひと

又らうハ遊者ふ喜のあふは正信
世中ハよ縁のこゝやとらわ九可
一夫乃月や面呈乃神也喜友貞
試むや平の海も急ひ正紙和年
坂越てよ命張るや老の去流味
子の年やぬのるはちもか見昌房
子代ちやられ是船あ夫無杖
事功を麻姑のよして是齡ふ常賢
今やふふ常とむつこ山代の去元隣
人まのよと約めとそや鴉鵲五則常
民の戸や世はひるあるこ糖繩可全
何よきん艶さささるやさふ俊秀
まうたにらる年玉や朝日就重隆
ほく栞もまの乃初のれあふあ佐

三の喜や正九日のいこし物隈光
よららむ詩の仄平う春の去秋
年とたふ庚子しりこり鼓棹寛
所口もそくあする親子受自研
事功のさだむすふやかこわ繩政内
又本う四方たくれぬ花の去立以
日の中の名を祝してやと約風立欣
重代の人まをやらふ乃喜春を
と朝や代の臨時乃系神の去宣親
人心花美の耐るきふ此去為親
門松や時を相恋の喜の也可改
改ふらあや遷文神の去隆菜
蓬菜乃始めくまをや浮初政綱
筋々り山の蓬菜あさうふ一量

改年神原の古石古々名門基元の松伊安

○寛文元辛年丑年

餅花もきふ小松よ袖子日立圃
名夷るやまを子耳果報まね
と朝そを舟を庭やとそ酒守令使
飴多り天のこけら門乃松而武
ふらんねつぎ所代のかさ繩貞室
娘氏煙のま云の引やまな娘は定清
喰つとも初乃まや中あつ常辰
あつる松や子日の用はつらと香竹
あつる玉の年のみれまきくか船空
白月や人の詞れ花り流不梅盛
忘り代や多おちぬをち鼓良保
鶺鴒の回の時一はくめけ友貞
うき鯛もはてり子や寝ひ事智

妻の色とつぎり襖のまき始今夏
 安徳の乃や去書乃や此海堂重
 年徳の眷属や皆禰の神正信
 西宮の猶存いと此之方外可也
 正月の子と丑寅のころめか正伯
 時すくに人わのま世や鏡餅素白
 井とさゆりたるそ袖よれ玉第俊秀
 神のまやるも朝への汎初を隆
 そのりのまもかくてそわめと 女重
 れのしやよ年とる此花開貞盛
 冠もめて川るこそくわ設を庸
 大麻引るわもこれ運銚流味
 年とよ子代の教もたる去 松安
 とそ酒の在無いとととらか令致

其れもまきやそ服を無服とる元隣
 其れ年と志のくもや乃ら阿の可全
 西宮代のまよ射初や力一吾
 賣初はかく市もた酒屋から後寛
 教の依八子代とめ 花開 立靜
 きのすり松子の先そきおれ書未及
 孫のゆもかよそのすも乞の書自辨
 民の徳厚もたふせり氷振政由
 久のぬれと朝や農丈の汎初信房
 歌子の敬言やちり神のまよ 立改
 聖代や麻よ文保四方のま 立死
 下れもまき半のまを五斗斗昌房
 おもたれや集りてととら初重政
 かい事いふたぬるま世のま改納

結び目もゆるぐぬ代や志の留神を氏伊安

○寛文二壬寅年

と躬志多や日中行事氏は去立圃
中卦之りそかそめそきそ始重形
衣波のりきんりむむきそ始令徳
叔の子れ供よつるや小慶京西武
よ小はあまゆわそらとく小貞室
鶴見うきき言や二書多定信
元日やも夜のかれ衣久く常衣
幸やあるにさるせて君の去梅盛
あふたるとくあのもうとさや名表香吟
こほしやふり梅の立枝や三礼去似空
年玉りのたよる記扇く外友貞
清と歌と紙事や久て二名礼去和年
大書の網紙や志るこら礼去昌房

むらりのえりれいふふを紅佐
ふゆいやと板のぬこ人んは好
わいんのそり強うかき縄念ふ
れよ立樂よふてふそくか自業
云の上にもくや須弥の四方祥友を
そり報あつても年の取ゆ正伯
事ゆやぬまふそこの花のまふまふ
まふはふは念を市れを此年の信
々ふまやまふ乃悦れニ七板可取
まの喜説とくもとくう外定を
めしこのまふやぬまその後の安き
せと乃まも未くくまふじえ際
達まやくも年徳の神海山康去
去と斗とく二筋よまや立田可全

佐保姫や年の名虎の駒子後秀
まゆの水きさくやまよのま重隆
書ゆのまや納文神の言流味
一筋よつたや放してかき縄ね返
わらまに強場休みくやまむか加道
聖代いふゆてふゆをた睦月か様覚
自むり何そとくにあまきね取納
解らま卒士の田やまらま伊安

○寛文三癸卯年

新喜の歌やあ代れこめ立圃
 夫ゆふれまらふや望はくふ
 其のよと人團るの四方新念徳
 始る人のとくも花の喜西武
 前名もはるる三つれ始る貞堂
 正重の二字や世ふ立神の喜仲若
 夫ら喜や枕初し祝ひ哥、定清
 めてとやとけりまらぬや此喜定事
 多しとけてらる喜や我を此喜の季吟
 笑佛は毛あふる何とる夷似空
 すふ針て釣るれ母う新夷梅盛
 立喜や日よとれ神の喜はし常辰
 乾坤や喜新喜はるる友貞

世界は江流種まいて花の春和年
 所り立まやとくと及こ〜き貞
 若水や人乃結り人事始宗隆
 七度のうい移人いらや夜月念安
 新うきま年う慢言宗神の去貞兼
 神去のまれつき物や金衣を正信
 々よまやまよらるこの花雲可秋
 やらめさる物にむと〜男正伯
 遊草のいつ葉もや屋れ物素白
 若水やよあせのまをうけ結元隣
 よままや馬もえら流う〜度康去
 年の免え方まむきた流海可全
 半助おれ遠わ〜家自ら外安き
 心まの々ふいま立あ〜とらか俊美
 戸公明てま以めんよむ法字は宗英
 浴中にはうらやま世の袖又茶流味
 伊勢海をやしふも秋の大かぢれ家
 去に春うのこまのよまはま経寛
 去のうぬ々よ四方山の鏡餅宗賢
 世も長にび君とつら〜餅竹存首
 玉と〜川兒や秋のよまゆまま名
 貴や買や孫ふけよふらら夷度寧
 昆布ませえ秋そま喜れ中宮貞秋
 鏡餅うまの志と川流ひ月正偏
 去のまはらうの枝葉う花のま昌房
 名ひの舞やほのちのち始政綱
 詩も秋もふ人たまを〜神宗氏伊安

○寛文四甲辰年

初春にお合がーらよ初子目立園
 誰とりも身の杖とせんきの去 重頼
 年とりぬ老乃嘗とあ忍ひて 合徳
 目おろるーは代はる也と目此去 貞室
 耳らふか奇と試すは老乃去 西武
 東君や日もあらむ乃光君 似空
 天や初子の道せらるぬ玉乃去 栲盛
 天八り年乃初子ぬくまの凡 香吟
 と朝やまの年波乃ゆり 花常辰
 玉去ハ御即位をさく始ク那 定法
 春を海と船子此神乃日足が友貞
 万寶れは初子さきり神の去 昌房
 大くははるを帰る初桑りか好与

餅花や氏子く此神乃ぬき未安
初爰れや三箇一のまゝ流味
るりももや目新成記の初爰
之喜乃危くもあまきとそ物極
む久ぬ喜や赤穂乃左喜訪玄隆
始年此喜や目新成乃極了三
秋乃因種長や時今且喜令爰
餅花乃祀そ花と三箇のまゝ負
年酒乃神そあらん辰寄西伯
東の人たあらん辰今且喜令爰
めらんらん強種そこれ乃喜正信
捨てらんらんそ思おらんけめ可
此あへん紙乃ましく試す外重貞
年とそ十種わらん今且喜令爰
すらんや自然乃道理片の定を
此乃志いも思ひもらんぬあ夷妻を
て此やよをまをそあまきを隆
え方柳きとや年と辰乃市宗英
くかめ石もはそらんぬ辰の可全
二つふ事や君代祀乃る之隣
くる年此らんも有分鏡餅宗賢
神あらんまやあまき親子行誓
我らんらん物を置らんえ方柳公風
佐保娘やあまきとあまき年 康去
天やそえあむもあまきとあまき
百年の長生をらん門乃否負私
日の始辰人十二支からんらん正信
睡月をえらんらんや柳きん正信

海松を元朝乃都北より松政納
大黒を再婚せしや諸君より一里
まく砂の敷より持帰る代乃吉任安
曾や流ひく神やよ毛乃吉宗元

○寛文五巳年

この年
と改名

去年まると朝福徳よ宿の吉立圃
永復あふれりもあや朝元維舟
之れ物も子小れりり者合徳
大服や旅のみり此花の吉西氏
聖代乃例志きき年乃娘系貞室
めとのこりかへは輕のけりり花季吟
門松乃あふれ徳や君子團盤
夢の万世乃吉左志とがり松梅盛
比代の吉や源氏より小初子貞
神乃代乃吉あや一女子テ日常展
門吉や千早あふ家のみ友貞
初吉あやと初物よ初子此日昌房
銀花や元日草にまより草好子

赤樹のやまの乃初子成るの言ふ
遠草も笑ふをよまの山狩覚
三年立の御之辨り君も言
とをある月こや今朝乃言か近
鶴のやま言ふ乃たぬの種流味
うと記ふまは代はすいふや後餅湯飯
萬一歳へ 吉一書ノ 一生白
花と見えかきりや松はほり友合宴
年いものおさ川乃始や一の宴良益
自ら人を又ららんあや朝の宗隆
老乃言やあれはひと山もあ宗南
ふとくや言ふ本とむの言ら伯
古もいし一乃よ後一とあ光正
と不姫は誰のちあゆ宿の言正信

遠草や山もかきりて人の言可
氏のこの代のこの氷の根ん定き
かりぬ候もあさ世もあ神の言安重
言れらるまや海は言ふ不姫子似般
言立本のめも言やよ一者宗英
物言やあまのこの言言言の康吉
ほやまの代のはま言あ夷可全
是ふふか昨の氷と今日凡元隣
よのや是人言の種ははりり友直
いとほあく同むとよりせ言言言存言
ひよりこけも傍流もあ代の言貞祐
言言言ああ言言言言言言言正倫
神と君も言言言言言言言銀行
言言言言言言言言言言言言言立以

門吉も二役ありて川子日丸春風
はりれ事や神代の系家美政御
年恒にことしれや民其素信
くむ石三國一そ店種れ酒正次
吉のれまにいつめく面母々くハ一墨
一多とまもやまも川うみ物常純
とくしれ今日地味お福家宗元

○寛文六^{丙午}年

六年やほ見よふん々々の言立圃
は紙のて紙と物そ何やハ維舟
書物や老くハ國は杖つき乃令佐
試むら筆ハ書杖をくめハ西武
還草の端や氣おす中儀貞堂
大服や世おそつて立ら大聖湯定辰
須弥山の南もくハもまの多常辰
佐保姫や除夜とせら此中気香吟
二つれ本ハ吾朝よや門の香梅盛
と朝おる日や梅始のねさふ画似空
越るあるハの畠の松さり令富
餅祀や還草にさく玉の枝友貞
おくくても二言計帳神の言和年

吾やき年此おもく人老を去る 貞兼
 朝の子いふ世も世いのち祝ふ事書
 年此いふおもくおつる 扇那 安隆
 正月の何もておしやる 鏡もち 正伯
 三光乃と終や悔る年此いふ 光正
 徳也やえよんくこの年の年可頼
 月讀の神の姿うかすもり 長之
 今も四つについて面記事始 元隣
 祇の園は根もやと世に銘松 康吉
 奇いおれまじも祝試すらん 安重
 いふもいつの年くもや 竹流
 川李や秋津湖崎とんまに京 似船
 時とる山や遠草多ふのま 宗英
 門 松年 徳 榊 生白

柑 周 正 代々 智

善悪一毎とけくま 昌房
 花あつらんふも喜也 故乃丸好子
 師代の喜や今も延替のまに 湯宮
 神乃喜はふ年見やうう 流味
 元日や祝ふ 芦原ふくさう 枝寛
 君代や友乃 月と鏡 鏡 彦隆
 此も今朝とて 迫りり花の喜 資方
 吾年此 煙氣りまや 喜 彦 彦立
 喜也二夜今年まてき 地 始 銀行
 書物乃 宿六 梅も小字くれ 正真
 橋やまら 五月とんかえんまら 重隆
 母いふまよふあふ 紙る 角 角和
 猶依もかへる 民乃 喜 彦 彦立 貞祐

歴代やせい乃紙に試字のし備
書物や我日此女乃女文字本坂立心
若水やたのり人乃才一味定親
朝日け因名や白小花の春為親
隆のさうかひ去んかちらぬ立心
お世そびにれ二つ老の春上表
かきあふ屋せ万代や松柏子未得
君と旅小言るうと代や民気立志
まゝふ世や掉娘氏乃玉れ万葉
昔ふ代と布るれ隆君とあ未得
ある屋やしうつふの神の春未得か友
書物やまふ所をあまふ改也
山吉や人乃を一ゆり神の道山吉
あつふ去年れ在隣りやあまふ有哉

娘一さやあまふ人乃むれ春月まき
波濤とらんあまふ女や氷松信親
今朝立たまふお能乃あら月る直
奇子詩は書物やおるこねと冬知水
実るる人乃心もこれのなる政納
とこまも目もくふは世今一墨
今朝祝ふらんよき午ぬ年始素信
宗物や夕日乃元方むま政友
旧々々々三便く、お師の年元日よ
試字のやすしそめて、お師の家神原氏伊安
おあひひむすく志名もたか智日
宗のふあふま乃統者乃御宗元

○寛文七丁未年

去歲之朝宗はちやきぬの土圃
けしきや神を毒とて物風維舟
わたりや屋を収ふ民は去念徳
我身ひたしる事やあると三日西武
世のうくるやまきる東翠自皇
朝おやをの心持やあふむ梅盛
かり板りめやれあふ事や李吟
万葉歌よふ我之れ山の去似空
年もろふ立や日本月氏必定法
大極や今朝の山喜れ一庭常辰
あふ座くや神のまたくあふ友貞
ふ言ひてまのこも嬉しめ乃去和年
十日余り近道屋をて言は芸昌房

串栲や庵さふせそふ人依 念夏
 橋ハ実ス花めくにし者 貞吾
 書初や幸の字取る老の去 良保
 身やうい年々業そ老乃去 宗隆
 正月や大とも代く小柑子 宣昌
 夷銭やゆくと十万元三月 正伯
 餅花や去もの持もれり去 光正
 年且の奇よらもろくこれ物子可我
 酌とそれ酒もや年花の 長之
 悦乃去やえつふよ一天下 可全
 いとすまも都も江戸も 元隣
 去のけさハ法代を足まの 似舩
 季のあや此まかんと 宗英
 昨日冬り小とや去れ 後三季 安重

赤そむる基きせんニツ三の去 流味
 菊は後やさうに子世へんとこれ 憑家
 遠草の跡や昔書の筆の悔 好子
 むくしふい今年やその鏡餅 宗雅
 ちかめーてひり突と試すか未安
 福や去人のこれとそ神の去 辰朝
 射とれもや人うかきらん弓始 権寛
 月まとして物あふぬ代の去 有静
 春の昔去未社名日ぬる那 清邦
 とその酒と去や去のくろる 宗立
 江よまこきんや人代神の去 隆隆
 ろとめとまの代の及今ぬ去 宗茂
 門もや我の山そののそり去 立静
 よう川よこのゆり物尾の去 依子言

ゆるり葉やまゝり柳よかりいら存昔
半あつめ故田目もこし 執者式谷風
名ふーおやや飛角目か後言始 貞祐
年玉の淺やま入祓人と祝月 正偏
喜んれて伝ふそなたる詠ふ風 銀行
寛文やせのふ縁ー くの去 ^{大坂}空存
花の去れまら神やさくや姫 ^立立以
今年我怖るの姿ふ瘦も形 ^可可致
坊まてハオにたあくの帯入れ ^日致也
喜事ぬと人の憂慮さり松 ^日立刑
糸波はや宮まの是いらは ^日道寺
遠草や爰にまゝく ^日皇代物 宗吾
賣買や玉土安淺 ^日若夷 兼安
あはせてや初るえ方の、ふらん ^日碎雪

あつ代やゆせいひつー ^日此年此去 玄札
神と天の代もや幸さし拜加笑 ^日未均
我伏々先立初る宿 ^日云 嶺利
役りーのあは小 ^日此年此去 宗吾
立以今朝 ^日三ツ子も 知年 去有哉
大あやとら ^日此去 信親
人とゆふその神の去 ^日やまら 蝶之
佐保姫やおま ^日くらの神の去 加友
汎物や酒宴中 ^日持去乃 今一雪
門礼 ^日のまの ^日以之 ^日人 ^日今朝 ^日の ^日去 ^日志
二平の去 ^日以 ^日あ ^日り ^日兼 ^日去
く ^日り ^日ま ^日る ^日去 ^日以 ^日や ^日こ ^日そ ^日れ ^日所 ^日向 ^日き ^日良
遠草 ^日や ^日か ^日ま ^日る ^日能 ^日州 ^日の ^日河 ^日の ^日山 ^日知 ^日水
言砂 ^日や ^日子 ^日代 ^日い ^日う ^日ま ^日ぬ ^日門 ^日乃 ^日去 ^日以 ^日納

かきりけりやふの縄を勝もき一墨
ふのよる物うななくやあり夷に執
幣帛やなうき代りてき神の志兼守
たふとまの采よすもや梅法師政友
國の天和とまもより此の祀の志伊安神皇
年毎に奉る此の志やと見はる智
のほ乃とまもやるもつ之方棚宮元

○寛文八戌申年

法風よりまやえ方此の志立圃
争此糸池海にやるも古書維舟
かの録しとまもは代大く見令徳
ひはの胞衣はるもふの産は西武
供おりて積有もふ有る此の自室
え日や誰もまもはぬ朝やも定清
おれぬや花をくり名の志は常辰
まもはるもまもはるもとの糸梅盛
宿の志に老を免許乃れもれ李吟
世に源氏もまもはるもや大良君似空
寛文や八百番代の神の志友貞
まもはるもまもはるも門の志来安
榊姫乃加増乃れも二度の志昌房

多て不つ志めさるて祝月貞魚
 名や久き名をも白も花乃春合家
 神は春さまんや年此猿と良保
 来り春にあひ乃松を京土産宗隆
 名やくい梅やゆい兄と男重昌
 正月ハ鯉をもおつりや名夷可頼
 棹娘のうさやりの初子長之
 餅花やちて志たまえ永の春正伯
 なる後乃餅や久人多り隆光正
 始終不りまや氣重今此春安重
 世は是に順乃道とり君春重尚
 却一春のふらさ物やけ春元隣
 学也春に六張乃ろり一欠可全
 今朝白の春日ハ伽羅乃初子似舩

猿智恵も怪小三乃とめ外宗英
 小州乃ん上や家よ門乃松好与
 五春此奇やん乃松と利宗雅
 さり娘も志さる道や三日流味
 庭もせふ引はるるや鶴繩憑留
 以國や和歌乃題林を此の春種寛
 白紙乃神やそのく若急此を資方
 二度此春や小春初も今と春山由
 春やひり一酒のまゝ名夷銀行
 夷代ふる大服乃茶や淡飯嶋末及
 春くもたたりしやや鉄繩不電
 酒船とるさるいえ子より春存昔
 年玉ハ流るぬまといむお新川谷風
 祝種長麦にあたまこ民此春貞祐

喜や内^歳餅^歳花やねさくら正倫
神の生々言同乃原^{大友}元方^{大友}柳^{大友}立以
来る喜の物め^日うき^日松の色^日定^日親
我門ゆ多^日い^日のま^日ふ^日き^日う^日松^日可^日玖
餅^日竹^日を^日年^日に^日乃^日う^日は^日一^日分^日宗^日朝
樂^日主^日福^日て^日樂^日に^日起^日り^日々^日の^日喜^日道^日寸
ら^日ゆ^日ら^日れ^日矣^日とい^日ふ^日言^日ふ^日や^日老^日の^日喜^日宗^日吾
後^日餅^日よ^日あ^日ら^日ぬ^日お^日や^日長^日登^日老^日如^日貝
門^日杏^日や^日々^日あ^日申^日臣^日の^日後^日串^日一^日為^日親
而^日代^日の^日喜^日や^日喜^日似^日て^日海^日津^日行^日の^日政^日納
等^日類^日も^日なき^日新^日喜^日れ^日祝^日奇^日哉^日一^日墨
屠^日蘇^日酒^日や^日喜^日立^日一^日乃^日祝^日ひ^日の^日兼^日守
喜^日乃^日礼^日や^日袴^日も^日き^日と^日ね^日り^日め^日言^日伊^日安
年^日く^日と^日り^日一^日て^日や^日き^日り^日繩^日知^日昌

浦^日と^日あ^日ら^日る^日よ^日此^日例^日や^日引^日弓^日を^日州^日肩^日子
悉^日く^日代^日は^日な^日れ^日と^日れ^日を^日う^日ら^日知^日水
旧^日お^日ら^日り^日も^日智^日乃^日志^日信^日の^日年^日始^日を^日れ
三^日等^日此^日始^日り^日は^日く^日人^日志^日等^日ふ^日宗^日允

○寛文九己酉年

門並よ志代乃嘉例や延表草立圃
糸乃人いりつゝ持守や年れ竜 惟舟
伴勢海やや半帆越るまの志 今佐
門松乃枝やそのまゝえ方ふ武
益人や目おささばうるふこの 点室
一秋明く連舟た敷る四もれ素 李吟
まをせらふ昔にもり 梅の屯似空
え朝や物志川くる世のそめ 梅盛
志の繩や山鳥れ尾乃志と種 長常辰
千これ高や霧飛と松とけくえ 定法
書初や万水一露筆をる海 友貞
西月乃小袖りくせり人ん 和年
年はもあふけいさー志方 桐昌房

三地乃鏡をやむる西の年良保
年をこらふよやりて松難自魚
かう尻くまらふおぬれ去令安
先例乃鏡のもらや氷様圓立
あむややくとて来つる西の年ち之を丁味
賢聖や肩あへぬ人代の去祐上
桃菖蒲菊もなほとそ乃酒正伯
書物や人の漆争の海光正
寒あつちひほき之佩物康若
大黒や魚とこらへて此若夷可全
未きき世いへるやうに花情似船
季よとほる花をやおとりの喜喜宗英
悦成物り名竹人年妖式安重
餅おとにあたまりゆる鏡の車尚

神のまやまをわがく見のま前流味
今朝の川や八変れも西の年追夏
花の川今朝世や年れを親子好之
年徳乃神木らじしと風乃去宗雅
陽の門をきて立や若れ去檀寛
日小向のまに東張の斗の邪玄隆
今朝敵やまの盾蘊酒は屋修光季
餅花や祝ふ蓬葉乃む乃枝末及
子世よらよやうに志を記銘松不雪
莖紙の小捨しと思ふかきう存昔
笠松よよ乃取より大さうり角知
まききと神は祿り祝ふ松饒貞祐
清代のまやあつてけうぬら倫字及之正信
清浄の清代や水鏡乃圓の去知水九州

哥れ種とよき事深る。老事小宗隆
妻や世とあらんうきりいぬ夷重昌
年玉とんくえ。白地はあし直重
急ひもせし事や栄かる屠獲内銀行
江戸小むくや山川日光祚の妻貞重
鶴り種をよ縁こや酉元年武宗
山乃安うけけ乃流小一有正世
六乃種まははきけよぬ妻友雲
鶴も五徳有るり市代の妻近知
國よふみやさいう物門中本元隣
年徳もとまりぬたり急ひ種元怒
門查や名よあふ京北修花資方
鬼門ととの字よりや鶴繩未安
おるひきまをこちたり鶴竹定信

急い種川と戦ぬる事や老の妻吉札
すくろくお世の宗旦と地お目お未は
世は種小の人の縁をや三日月 縁利
元日や皆一番中奇 念 宗言
ゆて種小屠獲るをなれ一取酒有哉
仁徳の種波はるす一歳の妻立志
大眼いめり最志縁の茶入るれ 兼平
お初や一二人四海するも外 満直
年れ矢を父とさすも右 智月 紅圃
畔をゆつと代や田代と祝月 一雲
け善の勢やあ急ひましく 一述
絵よ書る女の影うたれの妻立以
試筆をや厚書といふ人画筆政納
めんいあれやお年徳種あまは 一墨

誠る事相子より急ひて帝素信
あ急ひて入事門や老門當死
あ松の老せぬ門乃よりぬ政友
元日ハ五年波乃未おろ那 種房
きふやふ長宗き日く此等の種友
くくく知ててしも迫りきふ人 肩子

父老七十乃か事よ

万景とす川を極ぼる千は宗元

六つは文の川流のや三つは素利秀 京屋青木氏

○寛文十 庚戌年

我が今朝のわお三つ物や重仁 維舟
志り系や長き重井はきえらぬ合徳
おとこふ年やも枝々々の去西武
としくにもやうくくくあ急ひて真皇
三つ物やかくもふ去も立懐紙李吟
管此等知忠印二後かん去梅盛
去帝此を物や内内佐保娘良保
年やまふ今朝ふはめくおん 立 定清
ゆつりあふ縁や日おれ大より常辰
門本や老盤堅盤乃二友去友貞
一とせの慶喜の種よ花の去和年
去年ハお旬々お付旬の屯の上圃
門去や作り付するふ代乃道 去 未安

管始かくれあさの元方相 宗隆
 又越る年や道はき老の坂 喜昌
 蓬萊の山下彦や門忠玄 長
 蓬萊北山やほらら 場拂八光正
 種依やと蓬萊の山く川ら 了味
 よろこや又けき紙白ひ版 祐正
 恐ろくくもふくもふくぬる喜可全
 しみろそ下熱じらもめ 湖春
 新端よや狂あまうある 鏡繩末及
 手証やかくいらもき文らじ 不雪
 門にもたはあなるのかさう 外存音
 よもそのや聖の代とくき里人 南木
 富さく松や粧いらうすも 良清
 正月乃二月そくふをらふの喜高尚

多玉やまひよかふあうほい竹蔭
 出長老の流ちりともやい井月貞益
 門よゆくともかうと見む松飴種寛
 立まの人の姿や真の文字 好与
 書初や排諧奇城民忠喜 宗種
 蓬萊乃山城存うあや喜の喜 憑家
 門書や二葉尺端よき 殿作り 也好
 玻璃と成子年や流代の氷柳 玄隆
 佐保娘をむひ版と喜の喜 光季
 名香と立や鹿のあさ目け 宗立
 多物やすまは海とあまの 通芳
 先人をまらわれば門の松 連之
 梅や又く小九きりり 二夜の喜 貞秋
 久ぬあのみまらりりや 流代の喜 正信

幸ゆやせめて一字もあざりき 本春
三年八箇亥のふりよ神の喜 隆榮
新繩はほろあづぬらふ子 改納
心根や都乃外えたる志 一墨
大少に立ふ糸の色や喜海波 正扶
喜以今朝おくる思ふや 常純
一かどの用く 立たり 伊安
樂よまよれ 志や 伊は 和親
二度立や 他 同根 志乃 る 肩子
四海浪も あ は る か の 志 正 延
甜物狂わき 中 よ れ と 年 亦 利 秀

○寛文十一年 辛亥年

蓬萊や ま の 技 折 乃 蜜 柑 榎 子 維 舟
め と と 也 草 乃 か と と と 三 の 志 武
き 定 海 志 立 か 今 朝 乃 志 貞 堂
ふ ふ の 志 や 子 世 の 初 物 乃 有 梅 盛
柳 と さ る 松 の 志 と 也 志 志 本 吟
大服 や ぬ り ま れ ハ 伊 勢 孫 良 保
あ と ひ 斗 や 年 れ と と と と 定 清
ふ 土 今 朝 立 や 志 本 乃 祀 の 志 常 辰
大里 ハ く ら に と ら や 智 の 志 友 貞
これ さ ハ あ ひ ん と 後 と 二 交 雲 和 年
是 も 又 年 れ お も り 人 あ 志 志 と 圃
飴 と り む ハ 不 秋 草 志 志 種 寛
ほ む い の や あ く と 明 乃 志 金 家

袖ゆきのうらやまを六子そ始全貞重
君厚や及れ目書な清代の喜重宗
二夜めよ小聊ける年老乃去之懐
伊勢あきや時をもとく銚子常辰
掛朝ハ八字よひく御帳ハ随流
鎌ころふ酒ハ酔つらん乃去正去
玉きぬ乃きくをみくやま始光正
老乃身もまゝいていけまゝ夷了味
とえれ堂ハわたり都忠とま今喜雲
年をやろろ為とく折扇宗隆
あやふ年の以乃福寿原重昌
長久や後狂々人せれ去重高
むらさゆら飛しあふの去声政時
のる夜年れ物やよあ一句湖春

去書中上紙よえとろふ可全
かそへ可やひいふといふり睦月末及
い初あけとまたのむや中儀不電
都のころも初あよとまとの立神
代ハは愛やかききて聖代汎初谷風
今年れはととやいそ人本た了南本
去や二夜夜ひよめたくま箱吹櫛好与
ふ鎌や去より去れますかえん政之
ゆふ今朝年よりそそあ夷来安
天乃戸小引く二庭や大まり息立
惶根乃枝あや代々の神の去玄隆
王去のまゝりハ竹乃字ま生小回信
書物や一字あ用するも去也好
の乃内よまやろりこも銚子定信

飛山や幸世於乃に「さう不道芳
年臣と陽よりむより花のま直之
新玉乃花乃とわを初甲辰隆栄
是れと姫一もあつゝ^{政納}
若く年や立てては疾しかならふ尺
神さるは年此改まらぬ書のみ友和
親のゆえんが世と我之方棚元想
のとりまはるのふれ神の書不同
君や子世然らも新書さや父元童
ふり事は何をやいり御代乃書定法
むの書のみ一も人のと信功自祐
まのまやさぬるあひく書録理去
念力や年乃夫もちらば丹月表勝
年れ夫やあてれとらとぬら始を以

錢のれなれありとやあまひ 金高
蓮葉の海乃まひとあまひ^三順
牛初やふ代よ河川は屋作立心
かよりぬらやさきさき^親
年此改め奇や之方此心親十
あ水や少倉山依乃下なるれ 資芳
笑の門へ身もや福乃神の書一墨
福徳のてんを先ず試すれ 素佐
今年より始まるむくやあ美^堂此
はるや一乃佐や十一^{英重}
かよりぬら^{仲原}あま^{伊安}
わしたまは年やあゆ^{和親}
定文い^子ぬは代乃書^居
るあられ世もや今朝^採

大和^のや去^る区^一以^て屯^る善^也正^維
二^度すそや^る三月乃^は強^初利^秀

○寛文十二年^{壬子}年

山^ののね^ろら^りま^もき^九十^維舟
十^のや^や川^れニ^ツの^おと^り令^徳
あ^せお^もい^令れ^らり^乃子^の西^武
我^武る^宿お^もい^川や^今日^此皇^自皇
か^まや^あや^何と^りき^のい^らな^年季^吟
ま^のと^朝の^所横^雲や^四方^拜梅^盛
花^のま^まや^之夜^日に^まさ^らる^良保
春^の歳^一徳^の居^一祭^生白
東^方北^方を^り再^々や^まれ^の喜^常辰
日^の光^上振^あけ^たら^の喜^定法
の^酒乃^神乃^せう^とや^春月^友貞
々^とや^道之^き少^くる^年乃^喜和^年
我^の形^を承^乃内^とや^かり^繩上^圃

おやこん我もむくし言はる會
まくれは花もは代やすの盛重業
あうらやま喜んる杉小社の山持寛
年正神のは船よ小初ん丸塔方
秋とぬむ我も今朝とん花の元隣
まてん使ゆとふとそと州常館
蓬茅の基やあ乃に孫元保院
かり繩や神代より引も力雄立静
生れ出今年れ孫も法法臨宗隆
お智れ今も乃夢や玉越寺喜昌
秀乃ぬの八代や故乃るこめ了味
かりまかしとあれえ草草重次
うらやとひ上筋又下重の山七
年徳といこやまこく冬分の神光西

世さうりや耐しとらぬ花のまを高
とそ始かこむるふのあ時取分政時
のへはけ小万代や飴饅可全
樂ふ世や案何人了秀喜吉湖去
構乃あをさり原やにり者南木
念ひも鳥よあさくさむや年男宣を
むらやつと枝とほく宿乃去三辰
子年れ生記とるし門の松也好
教乃子れぬ辰いつ世太即月宣代
佐保姫の所耐のあり民と去玄隆
仍えとさらあるまや君子國國信
姐又の奇よ本卦忠老の去来安
はりまやと朝しとを浅鏡餅長之
年徳やき世をほそ年の枕神道芳

小助乃子世や之方志難去去之
去去也今其日其そあそひそ去
道来乃山向や之申種長は子そ
言そ人や去はる今朝の去去そ
向うくーくそ去れと去所定法
瑞龍と枕と去は法代の去 隆来
試系や十世乃去のく仙遊最政綱
年法や去を法はきれ枕種 金身
とこの井や去乃同のくは経 三光
之際るの去やと去は去の門 不夫
子ひつりーく客迎^興き知
民を去親くか去と去 元怒
初きあき地能もかや四方の 子同
あやや老乃波るの去去樂去去

長短乃奇れ試筆下七日是か備之
佐保姫そ憲法くくの一は去義勝
君うくく誰おるく世人鏡鏡石就
月と貝生去去くくは又母氣法去
年いれと去いあやや去去去去
君去去やふくもく風乃奇ん丸信
あややあ乃一徳今朝の去去^{大坂}
去の加れ土黒りや三つくく^同定親
年と去去天乃いさく用^同れ^月為親
福くたうく出れ子う去乃去一墨
け去乃ひさ侍奇をい去去か去代
くの業人弓万事とこの酒堂化
年日力是やも送店種^神の酒種反
三物いそそのくく連^伊安

去帝に在りてやその徳を
年の徳をむすの徳やま
有れ年やまをこめてむ
しひるやほろと事ふ代
三つ物や多想はふお
二三献くや今朝扇蕪乃酒
瑞雲やわさのこ徳を
をふまはしすふまら
おまらりそふらやま乃
宗元

○延寶元癸丑年

酒瓶と遊葉にあまの蒲外
各代もまろ老入つを
長いさハ刺りさ出は
今やこれも湯小繫く命
あいらも因一車一
世はゆるり花はいろけ
社せも種をまきさ
鶯一歌ハ 威一且、句生白
日代平や憲法公方乃
去や二夜肉介乃
奇ふらけまのや
餅花や枝もさ
大根乃ふま

志めかざる松の葉白く去りて全毎
房獲白散度瘴やいと三言は種真
之方柄切らや後代乃筑波山皆方
二奇や人の改小するをいれ許
おたぬやとこあつる今朝の随流
か三門や松をほくして林傳の常鑑
ほく砂と返あため宿好を元怒
梅の祀たせもかざん元の去谷遊
皆人乃年以とりあよれの去宗業
も川にれ一試るるは人牙宗隆
世小るるやき留りるを教を昌
十もよの色の色や去紀丑の年了味
そ向うの乃千の氣あふひそ言次
よ記をたれうしを道権作 正長

おとすやよきぬく清小神の光正
年此矢や五千乃屋宿乃去樹去
大りや房小越きと花乃去可合
東山やあつむ今朝より花乃正五
春平此世や同者よとて物ま尚
一とせ乃之方乃神や 政所 政時
之方柳やほつとふれもほい信房
ありとて崇む君も依保南木
昔例を引ると牛よよの去好子
四方に立まや二足乃牛れ角辰
遊葉乃山も去一かきり去定信
門廣く枝系と心これ親子家 有静
四季可小家うりりさ記や松 玄隆
あつとよるるや世に乃あ英國信

唐をたたりて是より先降東
花乃喜や年々其名も黒牡丹政納
九市や心くく一里ん花のく。一里
今爰は梅をももす。一方柳貞祐
京も江戸もまりよまりよ。理吉
錦繩やめてこれ乃の巻とて笑
元也一乃智岳人神乃喜金家
ゆゑの年亦立ちや本振三順
年徳や是まといはる位。内。本字
餅也乃花のくえい後那末反
喜立とて文字いふ人の正長
わく斗かと思ふや。かき。重知
喜小向も道はもや。是。下。山。不。天。

年徳乃も今もあや之方并交和
土依抵了。残るをその日記筆。清次
喜母やり。小田前。之い。成。成。重
新喜や玉乃名。より。山。倉。成。意。成。後
住妻乃。本。や。神。秘。乃。大。り。さ。富。寛
い。く。人。ハ。信。を。や。片。知。人。成。の。去。元。重
雪。此。年。く。さ。を。今。朝。の。喜。定。成
乃。と。み。や。日。ん。は。乃。三。の。去。不。同
唐。ま。も。み。く。む。さ。を。乃。去。元。徳
ま。り。人。も。さ。く。成。尺。く。や。後。領。道。智
賢。人。乃。子。く。や。代。乃。乃。乃。竹。昌。房
た。は。り。き。ん。三。ツ。乃。く。め。分。定。峰
本。の。の。り。く。新。成。乃。成。成。泰。重
新。玉。や。御。幸。乃。車。く。此。年。延。法

文

九三

今乃付岸てそ八を領う門乃去自信
かざるをいふも人なる半一姫小松宗信
よりやちりふま一の神の去平輝
逢葉乃山くみふれや年男光信
何んそは乃西りい乃半此年高州西翁
うそせよよまそとい宿の去道す
ふとれま乃と候やは是去去立以
不うらいやと下奉平國王葉子日保友
おと一陽くをまうまれ又候政也
大より大黒治乃平陽くれ日如貞
新玉乃去のひよりや候理世果日定親
神も今も今朝くむ水やあ美日為親
去年と一七名在冠も日去親十
去事一の二悪字やあめ平治之札

去る去や志川けと事と朝れい立志
蓬葉の次やうか候神乃去調和
門去や凡も真一て扱万年日末塚
く川年や貴一や人神の去日去言
引志めや百枝乃去の大り山日去孝
東凡も凡く徳さうり代の去日信法
年法や去の領日去長方女
梅も今朝くを管やあ日可服女
耕行や耕去乃ま日都草親古
年乃去を設乃代去日去良去
心去やあをせ乃扱の日一里塚心笑
迫りまもや土去乃車日去五の年正房
花乃去く日初元や末用紅日友松
年頭日春入部日昌悦

懸一鯉 夷一殿 筭^三俊信
門一松 春^三外一構^三野水
いさるいさゆるり 紫と汎初 丸風

天子や今日書初乃長喜樂宗貞
休去や久すあを此我世帯 隨流

ひうくを此ふとに同く乃を^去 盤^去
朝名やさやよおさまら代の^去 次之

為能引や書初乃等より^加 加^去 加^去 曲^去
まき能ひありや半乃とと^去 堂有^大

と流りの^知 我さく^知 水^知 乃^知 去^知
何くむく向小遠事也新^母 珠^母 踏^母 克^母 玄

橘^母 成^母 か^母 さ^母 ら^母 や^母 実^母 三^母 屯^母 の^母 去^母 善^母 年^母
今年我老くぬく^母 此^母 代^母 伊^母 安^母

遠^母 事^母 也^母 代^母 々^母 乃^母 且^母 昔^母 草^母 和^母 親^母

鶏^母 乃^母 何^母 も^母 して^母 何^母 く^母 小^母 毎^母 の^母 去^母 屑^母 子^母
祝^母 之^母 能^母 あり^母 也^母 此^母 代^母 の^母 去^母 事^母 子^母
元^母 方^母 棚^母 ま^母 け^母 朝^母 や^母 二^母 面^母 盛^母 綱^母
丑^母 乃^母 年^母 に^母 ぬ^母 ま^母 くの^母 礼^母 志^母 介^母 正^母 經^母
お^母 じ^母 海^母 ら^母 や^母 天^母 知^母 和^母 合^母 乃^母 接^母 餅^母 同^母

○延寶貳甲寅年

賑ふや弥世成りく年此花維舟
丹心月夜そ如くや乃去今徒
あくばるやまのいさうし宿の西武
立去もそ地まへそく花乃種梅盛
花そまへ祇園法乃乃花去季吟
福返れ年より入る去るれや良保
勝をりれくまのいさうし宿の西武
而も神代乃元も明睦月常辰
遠芽乃山をいさうし宿の西武
遠芽乃山をいさうし宿の西武
日むさひい流くも同し宿の西武
世に去野立ぬる去や去るし種竟
去初乃奇や人丸天地乃資方

種もや目より秋を聖り 念富
年小糸子あもたを空名振着有量
杉ぬけ代乃喜や延噴を人石重景
る露乃 ^{不明} 七ゆらう一才乃毛髪了味
一校了相子も三乃こくぬか真想
年祇乃その威を以て出立氣随阮
衣やその子代を山采市民共常鑑
よい云とりあるへく代民乃云天想
斗はものや敷乃子資を月報行
報者小そきむまて云あはふ 谷遊
年喜や喜ひにらて喜もぬ糸隆
年も志字延らや資を物 ^喜 喜昌
ほららや空を我おう此海之好
あうらや年をさるんよ乃互正長

少てぬや匂ひあきなる遊海宗交
誰も風乃親おかまよ代乃去湖云
喜もなき序地よりまてや遊雲 ^梅 正立
万代とみまの〇くへさう始 ^{可全}
子代とりあ疎るるぎ一粉雲 喜高
ゆのまあや世上とたそ門の松政時
へされよ喜は喜まけよの ^祀 位徳
新玉ハリけと創るき旅交 ^{道盤}
忽もや福もせきよ代的の云 康也
さう娘やむへ玉喜此旅、福 立隆
天此戸やめ乃喜と日祀門 國代
元日や禮云もきく喜あ取氏
あうらや実玉一池乃起草 方静
けりら喜や年と富あれ乃は ^{宝位}
九九

延寶二年也や竹支字ん隆栄
 砂や梨代蔭後に似る松飢段内
 世盤や小乃夜なし門乃去言為
 其の子女やる水もやく假松栄宝寛
 ちのこをくまうこと此の長
 花やある初志に足り此や宿
 我家より積り主風り不たる信房
 餅をや去も換頭乃此の春
 代乃喜や岳あり万令此誓も松
 親味もや交て連言て睦月理香
 空より何と小之体めと物乃喜休
 遠草や山乃ありむ乃喜令去
 河保姫乃むくの松也松飢三光
 ころへりあふらり立や年松去未及

遠菜乃喜はあぬ山也不分明
 人乃喜小娘一はしやあ小尺
 一子千金美乃うそこ亀娘忠道
 娘一きや乃はよのまる有乃去元カ
 扇やそく小戸にぬ民の去定治
 寶船乃帆やま引一かき鏡飯袋
 明て今朝もや懐か成代喜の光继
 少初乃待も松栄風を此の石就
 続世子世えすくはかと懐飢竹宗悦
 松うさる門やよこり一前の奥住之
 けいんもや老まるとはまの喜不同
 ニつひく之物乃ゆ板や者喜の元徳
 書初や千日草も松列位喜西翁
 およやそとたはせよりん公此喜月居寸

節分乃相形て身うらむ宗吾大坂
子世子や民んぼを老る者日之朔
遷葬や作をきうとて日之立以
去初乃るもやん乃ちちる人可改
りけて今朝天下此者此門定款
初者や今を中せ八千山如貞
灯灯や星乃ひり此四の神を安
君を船長やまさ不れ去るる親
門本乃色試亦や現うそ曲親十
ゆつり世やまう少者乃大さう方孝
我うこれ水法はそ用是乃松と
年座やまう川々乃必は神位候
分ふもわくぬ此代之老の去以仙
強健乃強うくあく一江戸外立札

又くやさいまうて老盤木門本切志
大少乃喬ハ幼屯乃森入ふ豊
急や一子も見て一を夜年以未塚
かゝる門や是にめて竹世此ため本春
色上るぬ雲暖る今朝之春尾州安門
去や旅節ふれ寝言以船あり常長
拒門 木公、大 | 鋸 志湖生
之つを後ふ言の世そまき新竹同
節分ハ人のあ人時々翁乃去貞行
民の喜や松乃木さうらに粧竹貞信
はの祀もむく一翁人乃初々那素桂
地綱やけえれむ神乃柳重徳
翁節にまき一ハ持りひらき豆を
爰よりや之方一四乃神乃去き没

ハ美忍ふにナキヤ法ホシキキキキ
アキヒキ乃代ハキキキキ耕永
東乃風ヤキキキキ乃云流水
喜ヤ東唐土ハキキキキ有直親
カレ初乃神の齡キキキキキ
春 歳一徳 移一徒 昌胤
年 矢 月 弓 始 俊信
系思キキキキキ乃云忠胤
後キキキキ代ヤキキキキ
新水キキキキキ乃波キキキ
福キキキキキキ乃云法キキキ
初キキキキキキ門ノキキキ
小塩山ヤキキキキ門ノキキキ

おつり紫乃名ヤ毎年キキキキ
たのひや女延キキキキ乃年男直之
かそいろキキキキキキキ正輝
神キキキキ乃鏡ヤキキキキ位伊親
取もヤキキキキキキキキキ可申
人ヤキキキキキキキキキキ宗永
佐保姫キキキキ産月之今歳哉 宗貞
写宿延キキキキキキキキキキ盤キキ
門ノキキキキ乃河キキキキキ正
切乃名キキキキキキキキキキ始キキ
人ノキキキキキキキキキキ吉次
子世キキキキキキキキキキキ明信
門ノキキキキキキキキキキキ吉隆
系思キキキキキキキキキキキ行

往く列と乃信是也や亦れ不行負
紅く白くや屠蘇を酒袋倫貞
日本乃風や名くあり美英也憲
遠草乃根生乃物う髪地老正信
居る今朝まき目くや喜は道九車
はま鏡き子代子くむ衣和一房
一介に子代や米ぬ米和ら法次
ゆかりと河やく藤民乃書成重
禮くそいて前書あり小善平
美やくや飛ぶも羽子乃玉風一墨
衣食住や我う小と三乃去喜信
海老いふお色く和乃書常能
ん乃書きれ詞乃くれ乃る待友
俳さて中や高かは代せん去西澤

うら年や路意八百乃老の書西鬼
ふ小くもや日本初め此後もら西澤
文字乃徳は猶毛乃く一美始伊安
かより繩くもちさうぬ礼介子
書初や御代を宗たた人守昌
おのれく梅もほく文心物知水
黒白くくも除根と菊の喜清
立云以悦く上下くちん那勝名
ほろらく乃取くは見く去同
我人や大を理を四言此守林
えう去の老くあり是也家乃書同
④ 陽といくよ今朝乃就境成徳
福徳乃子代乃神樂う松柏子同
安穩と神く初極くや代乃書同

久しうれを祝ふや子侍の姫松同
 佐保姫のねらうお姥の門乃重同
 陽春よいてひそか^{さや}なかり同
 丹波も春せぬやと見浦の春同
 出初や國王安徳さみけら同
 年々をば^なほ^りほ^り老の 同
 門小をのまらふおも^ら松林^に白飛

歳旦教句集れ大旨

一古一花のハ十年かかぬか
 ゆへ守武とゆゑて年代不^し知と
 題^はけそ^う開板^は是^は都^は都^は都^は
 によ^り以^て年代不^し知の句あ^らは^はは^はは^は
 へ^は中^へく^くお^もら^ふく^くふ^ふふ^ふふ^ふふ^ふ
 一貞徳立圃維舟 貞室 西去
 令使梅盛 季吟 似^たる^ふら^うの^は
 不^しあ^らず^に入^る事

一寛永十六年よりこのころ年号
 を記して来たがもの之程今又
 都鄙の入りあ^らは^はは^はは^はは^はは^はは^は
 に^まる^せせ^しま^らふ^に年^がか^へん^ふの^こ
 一と帳その家く^くよ^るを^あら^わす^{こと}の^いへ^とも

年々開板もふー又三ツ物之記ハ
毎年出づるもともより他國の
作者又ハ系もとも教習むる里の
作者の事ハ其れも今ハ但し
ハ未田舎の作者にぞいれ教習斗
と毎年正月ハ開板して来くこ
もそく世ハほく心との也
一教習のすくこ書教とさおし小
えしそのハ事加信書林の切
るもつらけさあさこそはま
るも信のハるり理りとも
中傳らん

八句代 まこ句みか

書林 寺町二条上町 表紙屋 店名

